

NO-MA 2018.3 / VOL.22

2018.3 / VOL.22

ボードレス・アートミュージアム NO-MA ニュースレター

特別報告 「2017 ジャパン×ナントプロジェクト」が 盛況のうちに終了しました!

「2017ジャパン×ナントプロジェクト」 現地レポート



展覧会レポート

アール・スリュット 動く壁画

ABCcolumn

アール・スリュットを巡るコラム VOL.12

地域インタビュー

あの一ひとの近江八幡スタイル 近江八幡おやじ連 ポレポレ25

2017 ジャパン×ナント プロジェクト 現地レポート



湖南ダンスワークショップの公演

前号では「2017 ジャパン×ナントプロジェクト」(文化庁委託事業「平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業」)の事業概要や経緯を紹介しました。今号は、2017年10月19〜25日にフランス・ナント市で実施された本プロジェクトの様子をご紹介します。

文木元聖奈

障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会

この事業は、日本のアール・ブリュット作品展の開催や障害者による伝統芸能、ダンス、演劇の公演、

日仏の専門家による国際研究フォーラムの開催、バリアフリー映画の上映などを世界有数の文化芸術都市のフランス・ナント市で行ったものです。期間中、このプロジェクトのために、400人を超える人たちが日本から渡り、街は両国の活気で溢れました。

2017年10月21日(土)18時に始まった日本のアール・ブリュット「KOMOREBI」展のオープニングには、フランス国立現代芸術センターリュウ・ユニックに約1,500人が押し寄せ、入場規制

がかかるほど。これは歴代の展覧会と比較しても記録的な数だと、興奮気味に現地スタッフが教えてくれました。友人や家族と感想を言い合いながら観る人がいれば、長い時間、作品から視線を動かさず一心に観る人もいて、その様子からナントの人たちに作品の素晴らしさを十分に味わってもらえていると感じました。

舞台公演も市内3会場が始まり、プロジェクトのパンフレットを手会場をはしごして回る人たちが街ですれ違っています。22日(日)に日本庭園で行われた、瑞宝太鼓の和太鼓演奏では、観客も一緒に身体を揺らし、舞台と共振しているかのような静けさを打ち破るように、「ブラボー」の声と拍手が響きました。太鼓には馴染みがあるようでしたが、神楽を観るのは初めてというナント市民にとって、いわみ福祉会・芸能クラブの公演は、面や衣装、

大蛇の道具など全てが鮮烈な印象を残すものでした。日本神話のストーリーがどこまで理解されるか未知数でしたが、息を飲むように真剣な眼差しで演者の動きを追い、見所では拍手が自然と沸き起こっていました。23日(月)にはナント国際会議センターシテ・デ・コングレで、湖南ダンスワークショップが公演し、その即興性の高い前衛的な表現に、観客は驚きと感動に包まれました。ダンスだけでなく、立ち続けることや椅子を叩くことで表現をする人もいて、一人一人が輝きを放つ舞台に圧倒され、惹きつけられていました。同日、リュウ・ユニックでは、じゆう劇場がロミオとジュリエットをモチーフにした演劇「ロミオとジュリエット」から生まれたものをフランス語字幕を投影して上演しました。多くの舞台を観てきたであろうナント市民にどのように入られるか緊張がありました。その演技や舞台演出に多くの賛辞が送られ、涙を流す人の姿も見られました。

これらのどの会場でもスタンディングオベーションが起こったことは、プロジェクトの成功を裏付けているでしょう。他にも多くのプログラムで多角的に障害者の芸術文化に触れていただき、期間中は約11,000人が来場しました(展覧会は2018年1月14日までに約55,000人が来場)。障害者の芸術文化交流はまだ始まったばかり。今後も世界で展開されていくものと大きな期待を抱いています。



「アール・ブリュット 動く壁画」は、一般から公募したキュレーターとNOOMAが共同で企画・運営した展覧会で、いつものNOOMA企画展とは違う視点が反映されることとなりました。今回、キュレーターとして迎えたのは、映画やドキュメンタリーの撮影といった映像分野で多くの実績を積んでこられた辻智彦氏です。本展は、同氏の映像への専門性が大きく反映された展覧会となりました。ご出展いただいたのは、岡崎莉望氏、木村全彦氏、西田裕一氏、甫氏の4名。本展のタイトルに「動く」という言葉がありますが、4名とも、紙面上に繰り広げられた色えんぴつやペンの「動き」を非常にダイナミックに感じることのできる作品を制作されています。



「アール・ブリュット 動く壁画」
2018年2月3日(土)~3月18日(日)
【出展者】岡崎莉望/木村全彦/西田裕一/甫

主催:アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会
後援:滋賀県教育委員会、近江八幡市教育委員会
助成:文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業 (平成29年度)

展覧会の大きな特徴は、生の作品と、作品を接写した映像を、並列に展示したところにありました。「なぜ、絵画作品をあえて映像化するのか?」この点に辻氏のキュレーションの意図があったといえるでしょう。カメラの眼を通して作品を見つめるという手法は、鑑賞者に新たな作品鑑賞の視点を提示することを可能としました。というのも、カメラの持つ視界は、生身の人間とは違い、クローズアップによって、普段なら見落とされてしまう、細部を強調することができるところです。美術史家、アビ・ヴァールブルグ(Aby Warburg, 1866-1929)の言葉に、「神は細部に宿る」という言葉があります。今回、辻氏が導入したカメラの視界は作品細部に宿る神性を発見し、作者の筆致を生々しく伝えることができたと感じます。これは辻氏だからこそ成し得た作品の展示方法の発見であり、「加工されていない」、「生の」、「つまり「Brut」を冠する、アール・ブリュットの作品を紹介するのに、非常に効果的なもの



2階 作品展示

であったのではないのでしょうか。実際に、展示された映像は、作者4名が紙面上に痛切に描き表したその世界を、ミクロな「動き」というレベルで迫り、私たちの前に示してくれました。本展の迫力のある映像の「動き」、そしてその映像を通してみることのできる筆致や作者の心の「動き」を目の当たりにして、きっと鑑賞いただいた皆様の心も、「動いた」はず、そんな風に感じています。



1階 映像展示

アール・ブリュットが
つないだ2人の出会い



KBS京都ラジオ
「Glow ～生きることが光になる～」
【ゲスト】田島征三(美術家・絵本作家)
北岡賢剛(社会福祉法人グロー理事長)
【収録】2017年7月14日(金)
於: グロー品川事業開設室
【放送日時】
第199回 2017年7月21日(金)
第200回 2017年7月28日(金)
各回21:30～21:55

祝
ラジオ放送
200回達成

過去の放送はPodcastでお楽しみいただけます。
文:アサダワタル(「Glow」パーソナリティー)

長らくご愛聴いただきましたKBS京都ラジオ「Glow ～生きることが光になる～」は2018年3月で終了することとなりました。放送で伝えなかったのは、「障害×表現」というテーマを通じて「人は誰もが当たり前前に多様な面を持ち合わせている」という事実。そして、その気づきのために「別の出会い方を発明しよう!」というメッセージでした。リスナーの皆様にはこの場を借りてお礼申し上げます。



アサダワタル

記念すべき放送200回(と199回)は、美術家・絵本作家の田島征三さんと、グロー理事長の北岡賢剛さんの対談を行った。30年におよぶ2人の交流の発端は、田島さんが伊藤喜彦氏の創作した作品と出会ったこと。伊藤喜彦さんと言えば、滋賀県甲賀市の信楽青年寮で長年造形活動に取り組み、滋賀県の障害福祉現場から生まれたアート、より広く国内のアール・ブリュットの歴史を語るうえでよく紹介される方だ。三重県四日市の子どもの本専門店メリーゴランドで販売されていた伊藤さんの作品から強烈なエネルギーを受け取った田島さんは、その作品を紹介して、当時信楽青年寮の作業班主任だった北岡さんと出会うこととなる。

田島さんの著書に『ふしぎのアートリストたち―信楽青年寮の人たちがくれたもの』(労働旬報社・1992)がある。その副題が示す通り、信楽青年寮に通いつめることになった田島さんが、伊藤さん始め、村田清司さんなど様々な異才に深く惚れ込みながら書き上げた論集で、「福祉とか治療とか教育とかをすっ飛ばして、純粋にアートとしてすごいんだ!」と

謳っている。アール・ブリュットやアウトサイダーアートという言葉が国内に膾炙していかない1990年代初頭にとって、実に先駆的なメッセージだ。北岡さんはこう話す。「最初はそこまで感動しているのか?」と思っていて。その評価には征三さんの「優しさもちょっとは入っているのではないかと。でもいよいよ本ができたときに、僕ら支援者が障害のある人たちが捉えてきた見方を根こそぎひっくり返した感じが強くあって。それから本気でこの人は彼らの作品に惚れている」と思うようになったんです。

田島さんは本にこめたメッセージの根っこについてこう話す。「一番腹が立つのは、あんなすごいものを作っているという事に対しての尊敬の念が、(世間に)まったくないこと。あの本の奥には、怒りがあるんです。こんなすごいのになんでこれをちゃんと評価しないんだ!」と。それから田島さんは信楽青年寮の余暇活動のみならず、日中活動にまで関わるようになり、彼らの作品を「ちゃんと売る」ことに着手。飲み口がギザギザのコップを実用品として販売できるように職員がなおすのではなく、その

ユニークさをそのままアートとして販売する、しかも銀座のギャラリイなど感度の高いお客に向けて販売することで価値の転換を図っていたのだ。

ラジオの最後、田島さんは、作品の市場価値や作家の社会的名声をもとに美術に触れる態度を徹底的に批判しながら、作る側も観る側も「細胞が踊る」ことが、「生の芸術」アール・ブリュットであること語った。そのメッセージは世間全体が経済一辺倒であり続けたことに対する抵抗でもある。田島さんと北岡さんの対話からは、福祉が福祉のなかだけで閉じずに、多様なまなざしの中から「障害」を創造的に再発見していくための道程を学んだように思う。

信楽青年寮で造形活動に取り組み伊藤喜彦さん
映画「しがらき」から吹いてくる風より(提供:シグロ)



あのひとの
近江八幡
スタイル

地域インタビュー
ohmi-hachiman local interview

ポレポレ25という居場所
ポレポレという精神
近江八幡おやじ連
ポレポレ25

文:高山円(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)



居場所は、そう簡単に手に入らないかもしれない。特に定年退職を迎えた男性にとっては死活問題である。だけど、居場所や仲間が見つければ、定年後だって楽しい毎日を送ることができる。ポレポレ25は、そんな居場所を手に入れたおやじ達のグループである。

ポレポレは、タンザニア語で「のんびり、ゆっくり」という意味。平成25年に結成したため「25」。ポレポレ25結成の背景には、定年退職した男性向けの料理やボランティア活動を主軸とした「男の居場所探し講座」があった。講座終

了後には、せっかく出会えた仲間との活動を望む声が多く、同期メンバーで自主活動グループが結成されたのは必然だったかもしれない。現在に至るまで開講されてきた講座の数だけ、同期メンバーのグループは結成されてきた。さらに、そのグループの枠を越えて地域貢献に尽力するボランティア活動もあり、ポレポレ25を含めたグループの総称を「近江八幡おやじ連」という。

さて、居場所と仲間を見つけたおやじ達の活動はいかなるものか。やはり、講座を通して身近になった料理作りは欠かせない。取材の日も料理作りの活動であった。インタビューのつもりが、目の前に割烹着と三角布が差し出されて参加することに。初めて作る焼売に緊張したのは私だけのようで、みなさんの手つきを見るととても大胆で、味付けも豪快。失敗をおそれず、料理自体を愉しんでおられるのが分かる。味見係の大役をいただき、恐る恐る口に入れると見た目目に反して美味しいのが「男の料理」たる所以ではないだろうか。「ポレポレはのんびり、ゆっくりという意味なのに、このグループが一番活動的かもしれない」と代表の東森俊之氏(左上集合写真、前列の右から3番目)。

花見やバーベキューなど趣味の活動に加え、市内幼稚園などでの緑のカーテン作り、カヌー体験教室、竹林整備に畑作りと地域に根付いた活動が多い。

その中には、NO-MAでの活動も含まれる。グループ結成時に、何かボランティア活動をしようかと検討していた際、「アール・ブリュット☆アート☆日本」のボランティア募集チラシをメンバーの1人が持ち込んだ。21人いるメンバーの半数の方に活動いただき、その後も継続的にボランティアスタッフとしてご協力いただいている。以来、アール・ブリュット作品に惚れ込み、「会いに行く」とお話しされる方がおられたのが印象的だった。

活動の中には、メンバーのご縁で引き継いだものも多い。まずはやってみる、といった意識の強さがそれらの活動を引き寄せたのではないだろうか。「どうやってグループを維持していくかではない。その時々、状況で愉しめることを見つけてやっていくだけ」という精神が、「ポレポレ」の真髄を表している。



この日のメニューは焼売とじゃがいものおやき

園児と一緒に緑のカーテン作り



NO-MA関連メディア

NO-MAグッズ

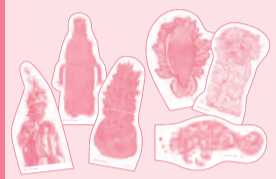
トートバッグ、クリアファイル、一筆箋

アール・ブリュットの作品画像を用いた一筆箋やトートバッグなど、NO-MAの店頭やホームページからお買い求めいただけます。

トートバッグ 1,000円

クリアファイル 380円

一筆箋 380円



<NO-MA企画展グッズのご案内>

2017年9月~2018年3月までの間に開催した「惑星ノマ—PLANET NO-MA」展の図録(左下画像)、「アール・ブリュット 動く壁画」展の図録(右下画像)を販売しています。



※その他、「惑星ノマ」展出展者のポストカードも販売しております。



<ラジオ番組の終了のお知らせ>



アール・ブリュットなど、「福祉」から生まれる様々な表現の可能性について考えるトークラジオ。

Glow ~生きることが光になる~

2013年より毎週金曜日、KBS京都Radioにて、放送して参りました、ラジオ番組「Glow ~生きることが光になる~」は、本年度を持ちまして終了いたします。長い間応援していただいた聴取者の皆さまに心より御礼申し上げます。なお、過去の放送はPodcastから引き続き聴くことができますのでお楽しみください。



展覧会・イベントレポート

2017年12月から2018年2月にかけて、NO-MAを運営する社会福祉法人グロー(GLOW)が関わって実施した4つの展覧会・イベントのレポートです。

「第14回滋賀県施設・学校合同企画展」
ing...~障害のある人の進行形~2017年12月2日(土)~2018年1月28日(日)
◎ボードレス・アートミュージアムNO-MA

県内24の福祉施設と2つの特別支援学校の職員、地域の造形教室講師、NO-MAが実行委員会を組織し、企画・展示を行いました。障害のある人の日々の生活に寄り添う人たちの目線で、独自の世界や表現を集めた本展。39人の作品を2期にわたりご紹介しました。

「シガカラ-2018 ~町屋へ歩く、心動かされる~」

2018年1月20日(土)~2月18日(日)
◎ボードレス・アートミュージアムNO-MA

「シガカラ-」は今年で4回目の開催となりました。2017年9月から3人の専門家が県内の障害福祉施設、特別支援学校等の協力を得て、作品調査を行った滋賀県に暮らす5人の作者による約150点の作品を、近江八幡市の趣ある奥村家住宅で紹介しました。

日本と中国のアール・ブリュット「共融地点」

2018年2月9日(金)~2月11日(日)
◎びわ湖大津プリンスホテル

「共融地点」は、日本と中国のアール・ブリュットを一堂に紹介する初の試みです。本展は、文化や環境を異にした作者による、表現の類似性と特有性に着目し、両国から31名の作者を展示しました。日本と中国、主体と客体などが融け合うような展示となりました。

「アール・ブリュット国際フォーラム2018」

2018年2月10日(土)
◎びわ湖大津プリンスホテル

「2017 ジャパン×ナントプロジェクト」はじめ、日本国内外において障害者の芸術文化に関する取り組みが活発に展開されている状況のなか、各国の実践の固有性や共通性を探るため、6か国から有識者を迎えアール・ブリュットについてのフォーラムを行いました。

次回展のお知らせ

NO-MA企画展「GIRLS 毎日を絵にした少女たち」

2018年4月28日(土)~7月29日(日)

🕒 11:00~17:00

🎫 一般300円(250円)、高大生250円(200円)
中学生以下無料 ()内は20名以上の団体料金主催:ボードレス・アートミュージアムNO-MA
社会福祉法人グロー(GLOW)

~生きることが光になる~

大正初期に生まれた女性たちが、歳を重ねてから描き始めた絵を展示します。今そこにある暮らしや、過去からの出来事一つ一つを描いた彼女らは、少女のようにきらきらと輝いているように見えます。少女の眼を通して見つめられた大事な瞬間を伝える絵は、私たちに毎日がかけがえのないものであることを伝えてくれることでしょう。

はたよしこ 【編集長はつばやく】

ボードレス・アートミュージアムNO-MA アートディレクター

この頃「自分は、どんな人だろう」と時々思う。私が子供であった日々は、誰とも話さず、遊んだりする友達は数少なかった。思えば、人と会話するのが苦しかった。小学校の通信簿に、先生が書かれた文章は「お友達を1人だけでは無く、もっと多くの友達を作りましょうね」と。その頃は、無口で話すことが苦手だった。今から思えば、友達は2人くらいで「本当に小さい世界の中」であった。中学生になってから、バレーボールをするようになった。私の父が高等学校の数学の教員で、その学校でバレーボールのコーチもしていた。その影響で、私もバレーボールをするようになり、スポーツの幸福感を感じるようになった。どんな事でも実行すると、世界が広がっていったように思う。自分の心の中に眠っていた事が、徐々に開花してきたのかもしれない。自分で行動すると、様々の楽しさが分かるようになったのだらう。知的障害などのある人達は言葉に代わって、自分自身の表現を他者に伝えたいのだ。「アート」という言葉を使っているが、本人には造形表現するのが「私の言葉」なのだ。



これまでボードレス・アートミュージアムNO-MAを運営してきた「社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団」は、2014年4月「社会福祉法人オープンスペースレガート」とひとつになり、「社会福祉法人グロー」となりました。



ボードレス・アートミュージアム NO-MA



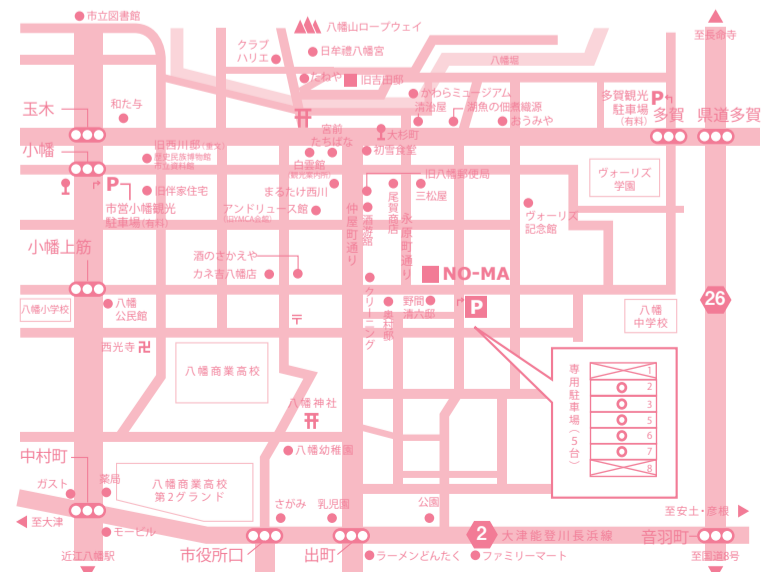
滋賀県近江八幡市永原町上16

TEL/FAX 0748-36-5018

休館日:月曜日
(月曜日が祝祭日の場合は翌日休館)

E-mail no-ma@lake.ocn.ne.jp

http://www.no-ma.jp



バス JR近江八幡駅から近江鉄道バス(長命寺行き)大杉町バス停下車 徒歩10分

車 名神高速道路・竜王ICより「近江八幡・国道8号」方面へ。国道8号「西横関」右折、「東川町」左折。国道2号「小船木町」右折、「出町」左折。(計30分)